

## (ウ) 小中一貫教育校を導入することによる効果

### 【教育課程及び指導内容等について】

#### < 児童・生徒にとって >

中学校の教職員が小学校の児童に対して専門を活かした指導を行うことで、学力の向上や学習意欲の向上を図ることができる。

学習の仕方などの学び方の系統性が確保されることで、進級・進学したときでもとまどうことがなくなる。

小・中学校の教職員が児童・生徒と共通の指導方針のもとで普段から関わることで、児童・生徒は安心して学校生活を送ることができる。

教職員が長いスパンで見守ることで、児童・生徒は精神的にもゆとりを持って過ごすことができる。

下級生は、上級生の児童・生徒と普段から関わることで、自分の成長についての見通しを持つことができる。

上級生は、下級生の児童・生徒と普段から関わることで、上級生としての自覚や下級生への思いやりを持つことができ、自己有用感を育むことができる。

#### < 教職員にとって >

指導内容が継続的かつ系統的に整理できるので、学習の効率化が図れ、高い学習効果が生まれる。

・総合的な学習の時間などで「課題の見つけ方」「資料の集め方」「資料の分析の仕方」「発表の仕方」などの学び方について継続的・発展的な指導が可能となる。

小学校教員の指導の良さ、中学校教員の指導の良さ等をお互いに理解し合うことで指導の幅が広がり、指導力を向上させることができる。

児童・生徒指導上の課題が生じたとき、長いスパンでの情報をもとに対応を検討することができる。

### 【学校の組織・運営等について】

既設の小中学校の再編を伴う場合には、管理職等の削減や教育施設・設備の再整理などを通じて、教育資源のより効果的な配分ができる。

### 【地域コミュニティとの関係について】

9年間通う学校ということで、よりいっそうの愛校心や「私の地域の学校」という愛着心が育まれる。

運動会や文化的行事などが小・中学校で同時に開催され、9年間を通した学びや子どもの成長を目にすることで、学校への信頼感が増す。

小・中学校両方に子どもを通わせている保護者にとって、引き取り訓練などの行事が一体化するため来校する負担が軽減するとともに、学校の「安全の確保」に関する方針への理解が進む。